

わたなべ くみこ  
渡辺 久美子さん



●プロフィール

63歳。厳原町出身、在住。小中学校の養護教諭として対馬島内外で勤務。介護のために退職した後も、教育現場のサポート的役割を担う。在職時代から心に不安や問題を抱える子ども達に寄り添い、彼らの居場所作りの必要性を感じる。多くの賛同者や協力・支援を得て、8年前に「フリースペース みちしるべ」をスタート。「共に活動し支えてくださる方々の存在は、喜びであり感謝しています」と語る。夫との2人暮らし。

○フリースペースを立ち上げるきっかけは？

教員時代から悩んでいる子どもたちと接することが多く、本人や保護者の方から相談を受けていました。年を追うごとに子どもの心の問題は複雑になっていき、このような子どもたちの居場所が必要だとずっと感じていました。その思いに賛同してくださる諸先輩の支援があり、子どもたちの居場所としてスタートしました。設立当初5名だったメンバーは現在16名。毎週水曜は、支援者も含めて20名ほどで活動しています。全員で同じ活動をすることもありませんが、個別や班に分かれての活動も行います。この8年間で23名が学校復帰や進学・就職をしてくれました。

○「みちしるべ」という名前、素敵ですね。

この名前は、フリースペースが活動を始めると、メンバーの子どもたちが自分達で考えてつけたんです。当時、同じタイトルの歌がヒットしていたことから選んだのですが、通っている子どもたちのこれからの道案内になる場所になればと思うと、びつたりの名前だと思います。

○この活動で配慮している点は？

フリースペースのテーマに「あせらず 楽しく 温かく」を掲げています。心に抱える問題はみんなそれぞれ違います。人を信じられなくなっていたり、自己否定していたり。彼らに、人と人は信頼し合うものだと感じてほしい。「私達は心の温かさやを伝えられているか」「それぞれの人生を生きるための支援になっているのか」と思うことの連続です。

○心の向きを変えることは、簡単なことではありませんね。

自己否定をせず、前向きに考えられるようになることは、簡単なことではありません。でも地域のイベントに参加したり、赤ちゃんとの触れ合いや就労体験、島内外での集いなど多くの体験から学んだり、成功体験を積み、温かな心のふれあいを繰り返しながら、自分を見つめなおし、自己肯定できる時が来るようにと願っています。

○地域で一緒に暮らす私たちも、理解を深めたいものです。

人はとかく結論づけたいがるものですよね。でも、学校に行けない子どもにも「何で行けないんだ!？」と問うても、彼らも分

からなくて苦しんでいたり、言えないでいたりするんです。

「登校拒否」と「不登校」は同じことではなく、「理由があつて行かないこと」と「理由が分からなくて行けないこと」なんです。先日読んだ「学校「ワイ」よつばもこ・文」という絵本は、子どもたちがどのようなことで困っているのか、何をどう感じているのか、手立ては何なのか、問題解決への糸口になる本でした。

○子どもたちと歩む中で喜びを感じたことは？

心理・作業療法を通して自分を見つめ、理解し分析していく活動もしているのですが、その時に新しい発見もあつたりします。彼らが表にはあらわしていないけれど持っている優しさや力強さ・今後への希望を感じられた時は、とても嬉しくなります。なんといいっても、子どもたちが自分の道を歩き出すことが一番の喜びですから。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は厳原町国分にお住まいの扇静香さんです。お楽しみに。